



自主か獨自か

國際聯盟の假面劇は十七ヶ月を経て暴露した、即ち假面がはぎ去られて茲に我日本帝國はその劇場から離脱した、そこで有識者間で今後の我外交は自主的外交だとおつしやる、固より外交には相手があるが凡そ獨立國の外交は自主の權能に依るのは當然である、自主の反對語は他主である今後自主外交と云ふなら今迄は他主外交であつたかと反問したくなる、自主外交は帝國の體面から見ても聯盟離脱後の外交に命名したくないのである、寧ろ獨自外交と云つた方がよからう、「東亞ニ偏シテ友邦ノ誼ヲ疎カニスルモノニアラス」愈信ヲ國際ニ篤クシ大義ヲ宇内ニ顯揚スルハ夙夜朕カ念トスル所

ナリ」と詔り玉ふ所を拜誦し恐懼せざるを得ない己むを得ざる事とは言へど斯くも

宸襟を煩はすに至つたのは我が爲政治家の反省熱慮を要する緊喫事である、獨自的外交の局に當る者は思を茲に致さねばならぬ、固陋の偏見と矯激の思想との警告は單に國民にのみ要求するの言ではない。(且生)

馬の足は何時解消するか

大阪府警察部交通課長齋藤氏は「めまぐしい交通頻繁な十字路に立ちなまやさしい警告では効果的でないので結局心にもない馬鹿野郎呼ばはりをするようになるがこれでは却て市民の反感を買ふので馬鹿を封ずることにしたものだ」と言はれて居る通

注意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを書し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の投稿を望む、一文四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

り、民衆警察の意義を失はぬ爲めに交通巡査の口から「馬鹿」をノックアウトすることとなつたとの事である愉快な話だ、十字街路で電車や自動車や自轉車などに脅かされ、ウロ／＼すると馬鹿の一言で振ひ上げなければならぬ吾々歩行者に取つて實に以てうれしいことだ、都大路に見物がてら往來する田舎人に取つては此馬鹿の解消は何んとも云へぬ福音と思ふ、此「馬鹿」の一言を街頭から解消することは全國に普及して貰らいたい、結婚の解消よりは公益的だ、だが劇場否社會から「馬の足」の解消さるゝのは何時であらうか、一將功成つて萬骨枯る、萬骨枯れば一將の功は空しくなるか、馬の足、馬の足なんと不快な役割であることよ。(支米生)

自動車の増加と傷害

世は不景氣で生活は困難だ不安だ失職者の数は増加すると言はれながら自動車の数の増加は驚くべきものである、即ち大正六年五月末日の現在数は東京の五十九輛を最高として全國總數は千九百十八輛に過ぎなかつたものが昭和七年十二月末の現在では東京の二萬三千三百八十二輛を最高とし沖繩でも九十九輛で全國總數九萬四千七百六十七輛となつた、十六ヶ年を経て約五十倍しておる、驚くべき増加と見なければならぬ、茲に交通状態の一大變化を顯はさざるを得ない、而かも彌て其事故状態を見るに全國に涉つては随分多數に上であらうが東京のみでも警視廳の調査に依る自動車事故統計では大正十一年には負傷千二百九十九人死亡四十四人計二千五百四人が十年後の昭和六年には負傷一萬二千四百二十一人死亡二百十八人計二萬二千七百七十七人の多數を示しておるが最近一ヶ年では負傷二萬

二千人死亡四百五十人計三萬五千六百五十七件となつたと言はれておる實に恐怖すべきことである、之に對する防止策や如何當局の所見を問ふ。(ゴーストツツ生)

乗合自動車から

道路への謝禮

自動車の發達は驚くべき程で地方での乗合自動車は山間の村落まで普及するかの觀がある、鐵道省でも自動車の發達で減收を見た鐵道經營と併せて乗合自動車を經營することとなつた、同省での自動車智識家としての一人者今の名鐵局庶務課長菅健次郎さんの友人プロツソオ氏の「鐵道經營の合理化と乗合自動車」と云ふ一論文を菅さんが譯し之を公にせられた、其譯文は自動車課への遺言とも見らるゝが兎に角乗合自動車の鐵道省營なり私設會社營或は府縣營なりで經營することが旺盛になるべく運命付けられて來た、そうなると地方の道路は天然痘に親しまれた顔面の夫れの如く路面

が變貌せらるゝのは必然である、路面のエクボを全國到る處の路上に視るのは祝すべきか呪ふべきか他人の手で造つた路面を斯くも利用しなければならぬ乗合自動車は之れで利益を取る、そこでどんな謝禮を道路へ提供するか、道路が此面どうして呉れるかとの恨みなきを得るや否や。(吳服橋生)

政治家正業法案は

制定せられぬか

自動車旺盛の時代が出現し路面をヨタヨタ歩く電車が非常な不況を招來し東京大阪京都神戸名古屋は勿論鹿兒島若松岡山富山仙臺札幌等の各地皆な赤字で此儘に捨て置くべきでないとの之れが匡救策に狂奔して居るが結局全國交通機關統制と云ふ主旨から電車と自動車バスとの聯絡料金經營法速力施設等に付きて統制の法を立て競争を避けて共存共榮の策に出づる爲め公衆正業法案と稱する法案を提出するの運動を爲しつゝありとか其内容如何は知り得ざるも正業法

とは適當な題目であるか否、浮浪人や失職者にでも合法的職業を與へるかの如き名稱ではあるまいか若し夫れ今日の如き經濟乃至政治の行き詰りで國民が赤字生活を餘儀なくせらるゝ點から見て之れが匡救を企圖せんが爲めに政治家正業法を制定することが尤も妙案ならずやと獨言する者はなきや否や (HYN 生)

二人問答竊聽記

甲「去る日結成式とやらを擧げたこゝどい會とはアリヤ何ンだネ非役軍人が中心で國家社會主義者と思ふ者が附加しておる、一體何をする積りかネ」乙「判らないナ、一團となり得ざる者が一團となる、そして新フアツシヨと云ふ主義だそうだ、甲「資本主義經濟機構を改廢し國家統制經濟の實現を期すと云ひ、既成政黨を解消すと云ふが如きはクーデターか革命か我日本の既成機構を破壊することだ、前門虎を防いで後門狼を迎へると云ふ姿とも見らるるではな

いかネ」乙「夫りや杞人の憂ひだよ、一時反抗却奮症狀を呈した丈けよヒットラーやムソリーニとやらは我國情では、一人角力に過ぎない柳の下の鱈だよ」甲「だが皇道政治の徹底を期すると云ふぢやないか」

乙「ソレそが二人羽織よ Cannon Top ぢやないか兩頭の蛇は珍物に止まるネ、君子は易に居て以て命を俟つ小人は險を行ひ以て幸を徵むとの子思の言を記憶して居るだらう」甲「嚮ふ所正を踏み、行ふ所中を執れよとの聖誠に循ふことが吾々國民の責任だネ」とこゝどい會認識不足二人問答記如件 (咬龍生)

東京も日本の内か

僕の伯父が「見よやサーカス、見なげりや三三年の春は語れぬ」との宣傳文を東京の友から送られてフト數十年前の東京を思ひ出し僻村から上京したが歸村して「六十錢で見物が出来ると思つたら全部會場を見ると十圓の上だ芝浦のサーカスでも五十錢

ぢやろくに見えないと聞いて、悲觀したが斷然遊覽バスを利用することにした、丸ノ内昔は三菱の原と云ふて人殺があつた處だが今見ると丸で話に聞くロンドンかニューヨークの様だよ、道路はよくなつて建物は村の小學校の幾十倍もある、自動車は右往左往飛び廻はつておる、電車自動車の數多いことがまわりそうだ、ウロウロすると交通巡査に馬鹿を喰はせらるる、東京驛前の郵船會社の横で濠の向側の土手の内にヌーイット高い高い煙突の様なものが立つて居る、巡査にアレは何ですかと問ふたらアリア警視廳の煙突ぢやと教へて呉れた、警視廳は何處かと問ふたら櫻田門外ぢや此處から新廳舎へ移轉したと答へられたから煙突は何ぞ移轉しないかと問ふたら大きな目をパチクリしながら、だまつて去つてしまつた、獨りボツチの煙突、高い高い煙突、何か用立つたらうか地震でもあると危険至極な代物だ」との土産話を聞かされた、村の火葬場の改築で取残された煙突が危険だの

にナゼ取去けんかと叱られた時の村長は此伯父であつた。處變れば品かわる、東京も日本の内かね。(山の里人)

世界經濟會議は眞劍か

我國經濟の行詰りは獨立的政策では到底救済解決の途が立たない、現代の經濟は世界的だから世界的に解決しなければならぬ特に世界大戰後に於てアメリカの横暴的主我的政策と佛米其他の諸國が相競ふて金の掻き集に力を注いだのが一段と各國經濟力を硬化し經濟を惡化した、ロンドンに開かるべき世界經濟會議は果して如何なる決議を爲し得るであらうか、米國で開かるゝ豫備會議が輸入禁止、輸入割當乃至爲替制限の打破を主要目標とするかの如く傳へらるゝが國際貿易を硬化したのは此等の原因に存するであらうか其他にも非常時勢を世界にもたらした理由はあるのである、だが軍縮會議や國際聯盟が假面劇としての外吾々

に何物をも寄與してくれなかつた先例もある事だ、ロンドンの世界經濟會議米國の同豫備會議が米國新國務長官ハルの半面に現はれた率直な態度が終始せられ各國代表者が眞劍味を以て討議したなら夫れが自由經濟か統制經濟かの何れに赴くにせよ國際聯盟よりは効果的であらう、關稅の障壁、國際貿易の梗塞、世界的不景氣、主我的經濟政策等々の迷夢より醒まされてもつと純な朗かな穿園氣の内に生活し得ることを望むのは萬國の民の心願である、何時まで鬼面を被つて亂舞したり、笛を吹いたりすることは許さるべきことではない、希くは此兩會議が假面劇の一場面に終ることなきを。

(比路志)

今様土佐日記

女ありけり、男もするわざを女もしてみんとするなり、此の日を千秋の思ひにて尉ヶ島を見物せんとて、三十人程のものを戀の品川を朝つとに出にけるが女一人打交り

ておわせり。

いそぐ程にこれははや浦賀の里につきにけり、待てるは三臺のバスなればおのがじ、乗らんと思ふ車にぞのりける。

バスはひた走りに走りてまたよく程に久里濱となんよべる浦廻に着きぬれば皆下車してこれはそも唐人お吉の仇姿の惚ひ出さるペルリと呼びなせるアメリカ人の上陸記念碑のあたりを右往左往してける。

一臺のバスは由ありて、小型の車に取りかへられてければ上つ方はこの車にと乗り換へ玉ふ程に大分のうしも女をいぎなうて乗り込みけり。

二臺のバスに残りし、わかうどども、このさまを見てのゝしり、さわぎにけり、ことわりなることもおもほへていとく笑止なることなんめり、今し三つの車はこゝを乗り出づ。小型はけわしきも、せまきもまゝなればひた走りにしりてその姿は見えずなりけり。

尉ヶ島めぐりの船は大浪にゆられくて

島をば一めぐりして油壺と云へる所につきぬ。

中略

夕げも終り此處にて皆々おのがじじ歸るところとゝはなりぬ。

あるはホンモクに或は伊勢崎町に文化の美をばたづねんとてわかれ〜にいにけり女も一むれの若き男と伊勢崎町のあたりをばそこはかとなく歩りきていとおもしろくおはししが午の刻近づきぬればとて男たちをうながして都に歸りけるとぞ。

あけの朝男達は母とも姉ともなりて享樂をすごさじとみまもられしことのいともくちおしとなげきはおくれたる事にてありける。あなかしこ。(氣のつらゆき)

今様土佐日記稿を

讀む

今は昔の土佐日記模倣文を一讀して、中々隅に置けぬ方のあるを看取した。D課員は一日の休息日を利用して城ヶ島、三崎地

方の交通状態視察考ゝ親睦と安息とを加味した遊行を企て、高輪で京濱電車の厄介となつて湘南線浦賀の終點で電車を下り、バスに乗り換へて久里濱にペルリの上陸記念碑を一見し、三崎の魚市場や防波堤なども視察し、岬陽樓上に晝食を取つた。ヒマラヤ山麓より取寄せたガマの油宣傳賣りの口上があつた、此餘興には一同滿腹を叩いて哄笑した。城ヶ島を巡覽し油壺で上陸、油壺の名稱起原など互に談り合ひつゝ帝國大學臨海實驗所で水産物の標本や實物を見て造物主の妙技を禮讚した、歸路は西海岸に途を取り返子驛で湘南電車に身を托し日出町で下車、直に三溪園へと自動車を走らした、例に依つて横笛の庵に故事を偲び開港記念館で夕食の馳走に預つて散會し思ひ歸路に着いた。此日は筆刀の苦を逃がれた愉快な一日であつた。

春を追ひ羽化登仙の

思ひあり

(編輯子)

マロニエの並木

佛蘭西へ行つた日本人には懐しいパリの景物詩ーマロニエの並木は最近著しく衰微したさうだ。ガソリンに弱いマロニエは一九三〇年來自動車が増増したので目に見えて枯死したさうだ。サン・ゼルマン街の並木などは特にひどくロウソクを立てたやうだと詩人の愛でた、あの白い花どころか若も芽もろくに芽ばえない状態になつてゐるさうだ。この並木の存廢は長い間パリ市會で論議されてゐた。だが最近マロニエ禮讚者が勝を制して同市會は並木復活費として百五十二萬四千フランの豫算を可決してサン・ゼルマン街をはじめ數ヶ所の並木通りに若々しいマロニエが植代えられることに決定した。尙、マロニエと異つた情趣を添えるためにソルボンヌ大學前の廣場、オルレアン大通りにはニレの木が、クルセル大通りにはスマカゲが移植されることとなつた。銀座の柳が若芽をふく頃にはパリも一入美しい装になるだらう。實に羨しい限りだ。日本でも道路の改良と共に景物詩になるやうな並木を植付けて貰ひたい。(M生)